

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

全体延長L = 4.85 km、全体事業費8,200百万円と事業規模が大きいため、工区を分割し計画的に執行しているが全線開通には長期間を要する。  
また、バイパス部には跨線橋が2箇所あり、鉄道事業者との調整及び施工に長期間を要することが見込まれていた。



太田跨線橋施工状況



邑楽跨線橋施工状況

両跨線橋とも鉄道事業者との協議を終え、工事着手している。

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし · 事業計画の変更 · スケジュールの変更

本事業は、国道354号の慢性的な混雑を解消するためのバイパス整備及び現道拡幅事業である。

事業規模が大きく、バイパス部には跨線橋が2箇所あることから、当初から長期間を要する計画となっているが、優先区間を設定して事業費を投入することで、効率的に部分供用を図り、事業効果の早期発現に努めている。

また、全体事業費の見直しにより、約20億円の減額となっている。

H21年度末までに全体事業費の約76%まで進捗しており、用地買収もほぼ完了している。また、鉄道事業者との協議も整い、跨線橋工事も推進中である。

平成25年度全線完成に向けての課題は解消されていることから、一日も早い全体効果発現に向けて工事を推進したい。

